



## 第3学年1組 国語科学習指導案 福井県福井市順化小学校

昭和49年3月2日(土) 第5校時

### 1 題材 新しい歯

### 2 本時の目標

「新しい歯」を読み、ぼろりと歯が取れたときのおどろきから空へほうり上げるまでのぼくの気持ちを話し合い、新しい歯がはえたときのうれしさを読み味わうことができるようにする。

### 3 児童について

(1) 1次感想では、18名の子が、「新しい歯がはえてうれしかったんだなあ」、「歯が取れたときの気持ちがよく似ている」などと自分の生活経験と結びつけて書き、歯がはえかわる作者のうれしさに共鳴している。しかし、「古い歯がとれて新しい歯がはえてもうれしくない。古い歯が取れると痛いし、少し血が出るし、いやな気分になる」と自分の経験だけ書いている子も4名いる。」

(2) 雨や雲のことにふれていない子は27名いる。しかし、「雨は、いつかやんでいた。雲の切れ目があかった。などのところはそのときの感じがでていて雨帰りのにじが出ているみたいに思えてさわやかな気持ちがする。」と深く情景を思いうかべている子が6名いる。また、「はじめにそんなにうれしくなかったから雨、あとからの方がうれしいから晴れ」と雨や雲にこめられた気持ちまで読みとっている子が1名いる。「なぜ、雨や雲のことが書いてあるのだろう」、「雨や雲のことはなくてもいい」という読み取りの子が4名いる。

### 4 題材について

(1) 新しい歯にそっとさわってくすぐったく感じ、またふしぎに思う歯のはえかりは、だれもが経験することである。しかし、それだけで終わりがちなおどろきとうれしさをこの作品は、きびきびと歯切れよく書いている。今までこのような詩を読んでいない子どもたちも、生活経験をとおして、共感をよびおこし、表現の親しみやすさなどから、気持ちを考えながら声に出して読めるようにするのに適切な題材である。

(2) 「かがみに外の雨がうつった。雨は、いつかやんでいた。雲の切れ目が青かった」などのところを除いても作品の気持ちには、変わりがないと思える。しかし、この3行により、詩人の作品という気品の高さ、質の細やかさなどが感じられる。それは、やさしいことばの中に成長していく自分を発見したうれしさがあふれているからだと思う。

### 5 指導について

(1) 自分の歯のぬけたときのことや新しい歯がはえたときの気持ちを思い出させ、新しい自



分を発見したうれしさにあふれる作者の気持ちに迫らせたい。

(2) 「おとなになる歯だな」単にことばとして理解するだけでなく、「思い切り高く空へほうり上げた」と関連づけたり、また、この作品全体の中からおとなになるうれしさに共感できるようにしたい。

(3) 「なぜ、雨や雲のことまで書いたのだろう」という教師の発問によって、「雨は、いつかやんでいた」の「いつか」に時間の経過を意識させたい。また、「雲の切れ目が青かった」の情景が描けるようにしたい。そして、雨や雲にこめられた気持ちもわからせたい。

(4) 虫歯の治療で歯医者へ行き、歯というと苦痛や不安しかないT1児やT2児、理科的な考え方でものごとをわりきろうとするK3児、詩の表面的な流れしか読み取れないF1児たちには、作者のあふれるばかりのうれしさに気づかせたい。

(5) 読み取ったことを話したり、感想を書いたりすることに抵抗がある子には、「思い切り高くほうり上げた」のところを動作することにより、作者があたりつけの力で天までとどくように高くほうり上げた喜びを分からせたい。

## 6 指導計画 6時間

- (1) 学習計画をたてる。新出漢字の練習をする。一次感想を書く。
- (2) 「新しい歯」を読み、ぼくの気持ちの移り変わりを読み味わう。」(本時2/6)
- (3) 「小鳥のしろ」を読み、情景を思いうかべる。
- (4) 「新しい歯」、{小鳥のしろ}の情景や気持ちを考えながら声に出して読む。」
- (5) いろいろな詩を声に出して読む。
- (6) ことばの練習をする。まとめをする。



7 指導過程

過 程	教師の働きかけ	児童の活動	指導上の留意点
めあてをもつ	○「新しい歯」のようすや気持ちを調べよう。」	○学習のめあてをつかむ。	○ひとりひとりにめあてをつかませる。
読む	○ようすや気持ちを考えてよもう。	○指名読み。	○「、」や「。」に行あきなど間の取り方に気をつけて読ませたい。
話し合う	○この詩の中でここがいいなあ、すてきなあと思うところはないか。	○いいなあと思ったところやすきなところに傍線をひき思ったことを書きこむ。	○ようすや思ったことを自分なりに書かせ、読みとらせる。
	○じゅんいちさんのようすや気持ちを読みとろう。	○じゅんいちさんのうれしい気持ちを話し合う。	○すきなところやいいなあと思ったところを手がかりにして話し合わせる。
	・思い切り高くほうり上げてどんなことか。	・空へほうり上げたことを動作化し、うれしい気持ちを感じとる。	○うれしい心を動作化によって表現させたい。
	・新しい歯をどう思っているか。	・自分の経験からうれしい気持ちを読みとる。	○ありたっけの力でほうり上げさせる。○自分の経験と結びつけ、作者の気持ちと比べさせたい。
	・歯がとれたときどんな気持ちか。	・ぼろりと取れたときのようすを考える。	○「ぼろり」から古井派が取れた時の不安、おどろきなどを読みとらせる。
	・雨や雲のことまでかいてるのは、なぜだろうか。	・雨や雲のことがある場合とない場合について考える。	○OHPで雨がやんだあとの青空にこめられた気持ちを考えさせ、うれしい気持ちに迫らせたい。
読む	○きょうの学習を生かして読もう。	○友だちの読みを聞いて味わう。	○録音を聞いて作者の気持ちを考えて味わ



<p>感想を書く</p> <p>次時への発展</p>	<p>○いちばん心にのこったことを書こう。</p> <p>○「小鳥のしろ」を読もう。</p>	<p>○作者になったつもりで読む。</p> <p>○感じとったことを書く。</p> <p>○「小鳥のしろ」を読み、情景を思いうかべる。</p>	<p>せる。</p> <p>○感情をこめて読ませる。</p> <p>○個別指導で十分感じとれていない子に助言する。</p> <p>○次時の学習課題をつかませる。</p>
----------------------------	--	---	--